令和４年度第１回富士見町総合教育会議　議事録

日　時　　令和５年３月１０日（金）　午後２時５０分～午後３時５０分
場　所　　役場２階　２０２会議室
出席者　　町長　名取重治　　教育長　矢島俊樹
教育委員　小林俊一　　北原八重子　　伊藤成八
子ども課長（小池美咲）　生涯学習課長（小林直志）
井戸尻考古館・歴史民俗資料館館長（小松隆史）
生涯学習課スポーツ係長（北原稔）
総務学校教育係長（小林宏充）
子ども家庭相談係長（神戸希代江）　記録者（清水千穂子）

１．開　　会

〈矢島教育長〉
これより第１回富士見町総合教育会議を始めます。よろしくお願いいたします。

２．確認事項

（１）富士見町総合教育会議設置要綱について
（２）富士見町総合教育会議の公開について

３．協　　議

（１）教育大綱の改訂について
〈教育長〉
・策定後２回目の改訂となる。富士見町民憲章と第６次総合計画、富士見町の子ども達の実情の向かう方向を総合的に踏まえ、富士見町教育大綱改定にあたった。人口減少と少子化は町としてだけでなく、国全体の大きな課題である。この課題を踏まえ、富士見町の明日を担う人材を育成するために、子どもたちが地域への愛着心を自ら育み、誇りを高めながら、心身共にたくましく健やかに学び育つことができ、あらゆる世代が生涯にわたってともに学び、自らの未来を啓き、社会に参画していけるような教育を推進していかなければならないと考える。

・令和５年度から令和８年度の大綱では３つの柱を軸とする。家庭・保育園・学校・地域・諸団体や各種機関の想いと力を結集して日々明日を楽しみにする子どもを育成し、“教育のまち”“子育てのまち”“学び続けるまち”富士見町を作っていこうという主旨。前回の大綱より大きく異なる点は、柱１の教育。基礎的な学力は重要だが、これからの超少子化時代を迎えるにあたり、大事になってくるのは愛着・誇り・参画意識であり、人生を豊かにするものと考える。

柱１“教育のまち”
・情報を正しく捉え、判断することがこれからの学力の目指す姿。身近な地域を対象とした保育・教育を推進し、自ら課題を見つけ、考え、学びの成果を地域に発信するなど、地域社会に参画する教育を推進する。
・特別支援教育ではインクルーシブ教育を一層進める。学びにくさ、生きにくさを抱える児童生徒も通常クラスで過ごす環境を整える。

柱２“子育てのまち”
・第６次総合計画の中でも重点施策にあげられているため、大切に取り組む。
・令和４年度すべての町立保育園が信州やまほいく認定園の認定を受けた。この環境を活かし、子どもが本来もつ感性や伸びる力を引き出しながら、豊かな心・創造力・たくましいからだを育む保育を進め、充実させる。
・子育て環境の整備として、児童クラブの環境整備や、中高生を含めた居場所づくりに取り組む。

柱３“学び続けるまち”
・生涯学習環境の充実を目指し、親子で学ぶことのできる場を整備する。町ぐるみで人権教育を推進する。
・公民館活動の推進として、町民の関心の高い公民館報や SNS を利用し、町の文化や歴史、公民館活動等広く周知する。
・生涯スポーツの普及・推進として、中学校部活動の段階的な地域移行が大きな課題である。町の人材資源を活用しながら、富士見町らしい地域の文化・スポーツ振興を進める。

〈小林委員〉
大綱の内容について定例教育委員会で審議してきたが、前回提案させていただいた第６次総合計画との整合性がとれている。総合計画の審議会にも出席したが、F ターンや富士見のファンを増やすことは、教育長の大切にする愛着・誇り・参画意識と方向性が一致し、重要な点は網羅されていると考える。

〈北原委員〉
素案から何度も審議を繰り返し、学校長や各課内など多くの意見を吸い上げこの教育大綱が完成した。また、多くの人に関わったからこそ、教育大綱の目指す姿に今後力を貸していただけるのではないか。

〈小林委員〉
第６次総合計画の施策取り上げ順からもわかるように、多くの町民が教育に関心を持っている。この教育大綱を町民に広く伝えることがより重要になると考える。各学校職員が教育大綱を読み込み、理解し、これを踏まえて教育課程の編成に意識して取り組んでほしい。また、その取り組みに対して評価や点検等より力を入れていくことが大切。
子ども達が自ら考える力を育む環境を先生方には大切にしていただきたい。

〈教育長〉
小学校の生活科や中学校の総合的な学習の時間は各学校で計画を立て、実行することができる授業時間。より子ども達が地域に発信する機会を大切にしたい。

〈北原委員〉
いじめや不登校の早期発見や対応、インクルーシブ教育に対して、学校の先生型にはが信念をもって取り組んでほしい。特別支援学級の担当先生だけでなく、学校全体で取り組む姿勢を大切に。

〈教育長〉
学びにくさのある子どもを切り離すのではなく、通常クラスのクラスメートと共に学ぶことができるよう環境を整えていく。

（２）中学校部活動地域移行関係について
〈北原係長〉
・スポーツ庁の「運動部活の地域移行に関する検討会議提言」（令和４年６月６日公表）では、休日の部活動について、令和５年度から７年度までを改革集中期間としていた。その後、スポーツ庁と文化庁「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」（令和４年１２月２７日公表）にて、地域移行の目標達成時期を見直し、「可能な限り早期の実現を目指す」“改革推進期間”と改めた。当町もこの方針に準じ、進めるものとする。
・２月２７日に富士見中学校長、部活動担当の先生、子ども課、生涯学習課スポーツ係で地域移行の打ち合わせを行い、部活動の状況や課題、今後の方向性について検討した。
・現在富士見まちクラブが部活動を支援する形で活動している。スポーツ少年団は６団体あるが、年々団体数が減少している。課題としては、地域指導者の確保や責任の所在、また地域指導者には健康面の問題、心と身体の健康もコーチング可能かどうかという点があげられた。今後町スポーツ協会、町地域スポーツクラブと連携し、子どもの気持ちを大切にしながら地域移行について検討していく。

〈小林委員〉
地域移行については手探りの状態のため、一筋縄ではいかない。慌てずに進めていくことが大事。他市町村の成功事例研究やデータ収集など、子どもが広く活躍できる場を作ってほしい。子どもの健全育成にはスポーツや文化活動が欠かせないものであり、人間形成の場でもある。経験が必要な競技もあるが、競技そのものを楽しむクラブ活動もあっても良いと思う。長い目で見て、子ども達がのびのびと楽しみ、活躍することができるよう進めていただきたい。

（３）町内児童生徒及び要配慮児童生徒の実態について（非公開）

（４）井戸尻考古館新館建設について（非公開）

（５）その他　　午後３時５０分終了